

性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性に係る学術研究・統計データ  
——日本における調査研究の現況と調査結果から見えること——

令和 6 年 2 月 29 日(木)  
国立社会保障・人口問題研究所  
人口動向研究部 釜野さおり

本資料における用語の整理

- **セクシュアル・マイノリティ**:性的指向におけるマイノリティ(ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、アセクシュアルなど)
- **ジェンダー・マイノリティ**:性自認のあり方におけるマイノリティ(トランスジェンダー、ノンバイナリー、X ジェンダーなど)
  - 「性自認」のみでは、トランスか否かの側面を表現できないため、「性自認のあり方」と言う場合もある(釜野 2020)
- **性的マイノリティ**:セクシュアル・マイノリティおよびジェンダー・マイノリティ
- **SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity)** :性的指向と性自認

1. 日本における SOGI に関する調査研究の現況

(1) 既存の調査研究(量的調査)の紹介

参考:釜野さおり・岩本健良・平森大規編「日本における LGBTQ+に関する調査等一覧」

<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/SOGISurveyList20230224.xlsx>

(2) 各調査・方法の特徴

クローズド型(ウェブ)調査・モニター型ウェブ調査

オープン型(ウェブ)調査

無作為抽出調査

2. 性的マイノリティについての意識・認識に関する調査結果

(1) 身近な人についての認識の変化

同僚、近い友人、親せき、家族	15 年意識調査	19 年意識調査	23 年全国調査
同性愛者「いる」	5.3%	8.7%	10.9%
性別を変えた人・考えている人「いる」	1.8%	3.8%	4.7%
同性愛者「いない」	54.2%	32.3%	28.9%
性別を変えた人・考えている人「いない」	66.2%	45.9%	40.8%

★「いないと思う」という選択肢も用意されているが、「いない」と回答する人は少なくない

## (2) 性的マイノリティに対する意識の変化

### 恋愛感情—否定的回答の割合

	15年意識調査	19年意識調査
男性が男性に恋愛感情を抱く	43.8%	29.3%
女性が女性に恋愛感情を抱く	38.9%	26.8%
男性にも女性にも恋愛感情を抱く	41.2%	28.1%

### 性行為—否定的回答の割合

	15年意識調査	19年意識調査
男性どうしの性行為	74.1%	61.2%
女性どうしの性行為	60.5%	47.2%
異性とも同性とも性行為をする	67.1%	53.8%

### 友人が性的マイノリティだとわかった場合—否定的回答の割合(抵抗感)

	15年意識調査	19年意識調査
男性/同性愛者	53.2%	37.9%
女性/同性愛者	50.4%	34.2%
男性/両性愛者	52.1%	37.2%
女性/両性愛者	49.1%	34.6%
男性/性愛感情なし	/	24.3%
女性/性愛感情なし	/	23.5%
男性から女性/性別移行	50.2%	37.9%
女性から男性/性別移行	50.0%	37.2%

### 身近な人が性的マイノリティだった場合—否定的回答の割合(嫌悪感)

		15年意識調査	19年意識調査	23年全国調査
同性愛者	近所の人	39.4%	27.6%	/
	同僚	41.8%	28.3%	14.1%
	きょうだい	66.9%	53.1%	/
	子ども	72.4%	61.2%	47.8%
性別を変えた人	近所の人	35.2%	24.4%	/
	同僚	36.7%	25.7%	13.3%
	きょうだい	65.6%	50.4%	/
	子ども	70.2%	57.3%	47.2%

### ★ 性的マイノリティの「何」「誰」をみるかで、否定的回答の割合が異なる

[否定的回答の割合 高い] ————— [否定的回答の割合 低い]

同性愛 ≡ 両性愛 > 無性愛

男性の場合 > 女性の場合

性行為 > 恋愛感情

男性から女性の性別移行 ≡ 女性から男性の性別移行

自分の子ども > きょうだい > 近所の人 ≡ 同僚

★ 2015年から2019年にかけて、否定的回答の割合がほぼすべての項目で減少

★ 回答者の年代や性別による違いもみられる(本資料では結果省略)

【否定的回答の割合 高い】 ———— 【否定的回答の割合 低い】

男性回答者 > 女性回答者

高年齢層 > 若年層

### 3. SOGIに関わる取り組みや施策の捉え方に関する調査結果

#### (1) 同性間の婚姻に対する考え方の変化

同性どうしの結婚を法で認めること／同性カップルが、法的に結婚できる制度

(賛成+やや賛成の回答割合)

	15年意識調査	19年意識調査	23年全国調査
全体	51.2%	64.8%	83.3%
男性回答	44.8%	59.3%	75.0%
女性回答	56.7%	69.6%	89.7%
20-39歳	72.2%	81.0%	88.5%
40-59歳	55.0%	74.0%	83.1%
60-80歳	32.3%	47.2%	74.4%(60-70歳)

#### (2) 性的マイノリティに関する取り組み・制度に対する考え方の変化

(賛成+やや賛成の回答割合)

	15年意識調査	19年意識調査	23年全国調査
差別なく公平に扱われるための法律・条例	／	87.7%	92.0%
同性カップルが養子や里親を育てる制度	／	69.9%	86.3%
同性愛:義務教育で教える(賛成)	52.2%	69.4%	87.8%
体の性別を変えたいと望む人:義務教育で教える	46.2%	62.9%	

#### (3) 人権や性的マイノリティについて学んだ経験—経験ありの割合

	19年意識調査
人権全般 学んだ経験(高校)	86.4%
性的マイノリティ 学んだ経験(高校)	18.0%
性的マイノリティ 学んだ経験(高校) 20代	54.2%
性的マイノリティ 学んだ経験(大学・大学院)	10.1%
性的マイノリティ 学んだ経験(大学・大学院) 20代	27.9%
人権全般 学んだ経験(企業研修・市民講座)	33.7%
性的マイノリティ 学んだ経験(企業研修・市民講座)	15.3%

#### 4. 性的マイノリティの割合と置かれた状況に関する調査結果

##### (1) SOGI の多様性 (都市と全国)

###### ◆ 性的指向アイデンティティごとの割合

	19 年大阪調査	23 年全国調査
ゲイ・レズビアン・同性愛者	0.7%	0.4%
バイセクシュアル・両性愛者	1.4%	1.8%
アセクシュアル・無性愛者	0.7%	0.9%
決めたくない・決めていない	5.2%	5.6%
質問の意味がわからない	7.5%	11.3%
不詳	1.1%	1.0%

###### ◆ 性自認のあり方に関する割合

	19 年大阪調査	23 年全国調査
シスジェンダー	98.9%	98.7%
トランスジェンダー	0.7%	0.6%
不詳	0.3%	0.7%

###### ◆ 性的マイノリティの割合

	19 年大阪調査	23 年全国調査
LGB	2.2%	2.1%
LGBT	2.7%	2.6%
LGBT A	3.3%	3.5%

###### ◆ 性的指向の複数の側面の関係性 (19 年大阪調査)(Hiramori & Kamano 2020)

- ・ シス男性(出生時に割り当てられた性別が男性で、自身も男性と認識している人):  
[恋愛的惹かれ・性的惹かれ]、[性行為]、[性的指向アイデンティティ]の3側面の1つ以上で同性愛的な回答をした人は 2,742 人中 109 人(6.3%)。
  - その 109 人中、3 側面すべてにおいて、同性愛的である割合は 27.5%。
- ・ シス女性(出生時に割り当てられた性別が女性で、自身も女性と認識している人):  
[恋愛的惹かれ・性的惹かれ]、[性行為]、[性的指向アイデンティティ]の3側面の1つ以上で同性愛的な回答をしたのは 2,497 人中 244 人(9.8%)。
  - その 244 人中、3 側面すべてにおいて、同性愛的である割合は 9.0%。

★性的指向の複雑さ、多様性を示している→多様性を踏まえた対応が求められる

##### (2) 生活経験や意識の SOGI による比較 (23 年全国調査)

- 性自認による比較: 男性(M)、女性(W)、男性・女性にあてはまらない(X)
- シスジェンダー(Cis)、トランスジェンダー(Trans)間の比較
- 性的指向アイデンティティによる比較: 異性愛者(H)、同性愛者・両性愛者(LGB)、無性愛者(A)

- ・ 比較結果に関する留意点:マイノリティ(X、Trans、LGB、A)の該当者数が少ない

- 日常生活の中で悩みや困りごと

「ある」の選択割合(%) (いずれかのグループで、上位 5 位に入った項目を提示)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
該当者数	5,339	2,304	2,971	24	5,267	32	4,218	114	49
自分の健康	50.4	50.4	50.2	66.7	50.3	71.9	49.9	58.8	57.1
仕事や就職	36.9	38.5	35.7	70.8	36.9	78.1	36.6	57.0	59.2
恋愛や結婚	13.0	12.3	13.4	33.3	12.9	40.6	13.0	36.0	12.2
家族の介護	19.4	18.0	20.5	33.3	19.4	34.4	19.2	22.8	32.7
収入や家計	38.3	36.8	39.4	66.7	38.3	59.4	37.8	52.6	42.9
住まい	16.6	15.9	17.1	41.7	16.5	37.5	16.3	26.3	20.4
老後の生活	43.0	41.9	44.0	45.8	43.1	43.8	42.6	40.4	55.1
家族・親族関係	16.9	13.5	19.5	41.7	16.8	43.8	16.6	29.8	32.7
家族の健康	30.7	27.4	33.5	29.2	30.8	31.3	30.9	27.2	30.6

網掛け凡例

1 位 2 位 3 位 4 位 5 位 各グループでの順位

- 不快な冗談・からかい、暴力の被害経験割合(%)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
小学校から高校									
1 不快な冗談	58.0	58.5	57.7	83.3	58.0	84.4	58.4	81.6	75.5
2 暴力的行為	19.8	31.1	11.0	45.8	19.7	43.8	19.1	28.1	34.7
3 LGBT 不快な冗談	6.9	7.8	6.0	29.2	6.7	34.4	6.4	25.4	8.2
4 LGBT 暴力的行為	1.5	2.2	0.9	8.3	1.4	9.4	1.2	5.3	6.1
大人になってから									
1 不快な冗談	30.4	30.1	30.5	50.0	30.3	50.0	29.3	49.1	55.1
2 暴力的行為	8.7	9.3	8.1	8.3	8.7	6.3	8.1	14.9	12.2
3 LGBT 不快な冗談	1.9	2.3	1.6	8.3	1.9	6.3	1.4	14.9	6.1
4 LGBT 暴力的行為	0.4	0.6	0.3	4.2	0.4	3.1	0.4	0.9	0.0

1 不快な冗談、からかい、2 暴力的行為、3「ホモ」、「おかま」、「レズ」、「おとこおんな」、「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかい、4「ホモ」、「おかま」、「レズ」、「おとこおんな」、「オネエ」といったことでふられる、暴力的な行為

- 主観的健康、こころの状態、希死念慮・自殺未遂経験等(%)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
A 主観的健康【よくない】	13.4	14.3	12.6	33.3	13.3	31.3	12.6	19.3	26.5
K6 値 5 点以上	37.3	34.4	39.5	75.0	37.3	71.9	36.4	50.0	53.1
K6 値 13 点以上	7.6	7.6	7.5	25.0	7.5	25.0	7.0	21.1	12.2
1 生きる価値がない...	26.4	21.3	30.1	79.2	26.2	75.0	25.1	57.9	68.1
2 死ねたらと思った...	26.3	20.9	30.3	75.0	26.1	71.9	25.2	58.8	66.0
3 自殺を考えた...	12.4	8.8	15.0	58.3	12.2	56.3	11.3	34.2	46.8
4 自殺を図った	2.5	1.5	3.1	16.7	2.4	18.8	2.0	8.8	10.6

A: 現在の健康状態について、「よくない」と「あまりよくない」の回答の合計

K6 値:最近一か月について、「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「それぞれ、落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じましたか」、「何をするのも骨折りだと感じましたか」、「自分は価値のない人間だと感じましたか」への回答からなる指標。5 点以上は「心理的ストレスを抱えている可能性」、13 点以上は「深刻な心理的苦痛を感じている可能性」があるとされる。

1 「生きる価値がないと感じた」、2 「死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた」、

3 「自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした」、4 「自殺を図った」

■ 子どもを持つ希望(「持ちたい」)の回答割合(%)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
子どもを持ちたい	23.4	24.4	22.7	33.3	23.5	31.3	24.4	38.6	14.3

■ 引っ越しの希望(%)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
引っ越しの希望あり	45.5	42.9	47.4	66.7	45.4	65.6	45.2	76.3	61.2

■ 身近に性的マイノリティがいるか(%)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
同性愛者 「いる」	10.9	7.9	13.3	25.0	10.9	21.9	10.7	33.3	8.2
「いない」	28.9	31.9	26.9	12.5	29.1	12.5	27.1	11.4	20.4
性別を変えた人・ 考えている人 「いる」	4.7	3.6	5.5	20.8	4.6	21.9	4.6	12.3	6.1
「いない」	40.8	42.6	39.6	25.0	40.9	28.1	39.4	26.3	34.7

■ 住んでいる自治体における、パートナーシップ制度の認知(%)

	全体	M	W	X	Cis	Trans	H	LGB	A
制度ある・決定している	5.7	6.0	5.4	8.3	5.7	9.4	5.7	11.4	10.2
制度はない	11.1	9.9	11.8	33.3	11.0	31.3	10.1	24.6	14.3
あるかどうかわからない	82.6	83.5	82.2	58.3	82.8	59.4	83.8	64.0	75.5

(3) SOGIによる経済格差—(19年大阪調査)に基づく研究例 (Hiramori 2022)

出生時男性の性的指向別の賃金割合の比較

- ・ 異性愛者の賃金を 100%としたとき、  
同性愛者 73.8%、両性愛者 87.0%、無性愛者 63.3%
- ・ 他の要因(※)を統制した場合、異性愛者の賃金を 100%としたとき、  
同性愛者 94.6%、両性愛者 107.8%、無性愛者 78.8%

※トランスジェンダーか否か、日本国籍か否か、配偶者・パートナーの有無、18歳未満の子ども数、

最終学歴、実経験年数、勤続年数、職業(職種)、雇用形態、企業規模

(4) 同性カップルの生活実態―〈22年カップル調査〉に基づく研究例  
法律婚男女、事実婚男女、同性カップル男女 を比較

▪ カップルの家事分担

*食料品の買い物	1 一方がいつもやる	2	3	4	5 ふたりが同じくらいやる
男性―法律婚	22.4%	14.3%	19.7%	14.8%	28.8%
男性―事実婚	17.5%	12.8%	16.6%	12.0%	41.1%
男性カップル	18.6%	11.5%	15.9%	15.0%	38.9%
女性―法律婚	36.5%	15.1%	17.2%	9.6%	21.6%
女性―事実婚	32.5%	12.4%	13.0%	9.3%	32.9%
女性カップル	16.2%	11.1%	10.1%	15.2%	47.5%
<b>*トイレの掃除</b>					
男性―法律婚	38.3%	13.4%	17.3%	12.0%	19.1%
男性―事実婚	40.0%	11.6%	14.1%	10.2%	24.1%
男性カップル	39.8%	13.3%	11.5%	9.7%	25.7%
女性―法律婚	57.1%	10.2%	12.8%	7.3%	12.6%
女性―事実婚	63.6%	9.7%	8.3%	5.0%	13.5%
女性カップル	28.3%	15.2%	18.2%	13.1%	25.3%
<b>*夕食の支度</b>					
男性―法律婚	42.7%	17.2%	15.4%	10.6%	14.1%
男性―事実婚	38.2%	16.4%	15.4%	8.9%	21.2%
男性カップル	34.2%	17.1%	16.2%	8.1%	24.3%
女性―法律婚	53.7%	14.9%	11.9%	7.9%	11.7%
女性―事実婚	51.5%	13.1%	13.5%	9.1%	12.9%
女性カップル	29.3%	14.1%	19.2%	12.1%	25.3%

\* グレーのセルは、「ふたりが同じくらいやる」の回答割合が、法律婚<事実婚<同性カップル

▪ 支払いの分担（法律婚男女、事実婚男女、同性カップル）

家賃や住宅費	1 すべて回答者の収入から	2,3,4	5 ふたりの収入から／ほぼ半々	6,7,8	9 すべて相手の収入から
男性―法律婚	41.3%	19.7%	20.0%	4.2%	14.7%
男性―事実婚	37.9%	14.4%	37.7%	4.3%	5.5%
男性カップル	13.5%	15.3%	39.6%	10.8%	20.7%
女性―法律婚	10.5%	8.9%	21.3%	7.8%	51.5%
女性―事実婚	11.6%	5.2%	29.5%	8.1%	45.7%
女性カップル	11.3%	19.6%	40.2%	15.5%	13.4%
食費	1	2,3,4	5	6,7,8	9
男性―法律婚	32.3%	21.1%	25.4%	7.3%	13.9%
男性―事実婚	20.5%	18.4%	44.4%	9.2%	7.5%
男性カップル	12.5%	15.2%	45.5%	14.3%	12.5%
女性―法律婚	10.8%	12.0%	25.5%	11.1%	40.7%
女性―事実婚	13.3%	11.7%	35.0%	11.9%	28.1%
女性カップル	4.1%	21.4%	53.1%	15.3%	6.1%

\* グレーのセルは、「ふたりの収入から／ほぼ半々」の回答割合が、法律婚<事実婚<同性カップル

大型家電	1 すべて回答者の収入から	2,3,4	5 ふたりの収入から／ほぼ半々	6,7,8	9 すべて相手の収入から
男性—法律婚	37.8%	20.9%	23.3%	5.2%	12.8%
男性—事実婚	29.8%	19.4%	41.7%	5.2%	4.0%
男性カップル	11.6%	17.0%	46.4%	8.9%	16.1%
女性—法律婚	9.7%	10.7%	26.0%	11.1%	42.6%
女性—事実婚	9.5%	5.7%	40.3%	11.7%	32.8%
女性カップル	9.2%	24.5%	43.9%	11.2%	11.2%

\* グレーのセルは、「ふたりの収入から／ほぼ半々」の回答割合が、法律婚<事実婚<同性カップル

★同性カップルは法律婚や男女の事実婚カップルと同様に、家事や共同生活にかかる費用を分担しながら生活している状況がうかがえる。同性カップルは、男女カップルより、平等に分担する傾向あり

#### ▪ 親きょうだいとの関係

相手の親きょうだいが、回答者を「家族の一員」だと感じさせてくれるか(1=非常に感じさせてくれる、9=まったく感じさせてくれない)(平均値)

	〈夫・妻・パートナー〉の父	〈夫・妻・パートナー〉の母	〈夫・妻・パートナー〉のきょうだい
男性—法律婚	3.79	3.71	4.09
男性—事実婚	4.54	4.30	4.69
男性カップル	5.24	5.77	5.90
女性—法律婚	3.88	3.97	4.55
女性—事実婚	5.03	4.69	5.43
女性カップル	5.58	5.12	5.38
全体	4.24	4.16	4.64

\* グレーのセルは、平均値が、法律婚<事実婚<同性カップル

★ 男性カップル、女性カップルは、法律婚カップルや事実婚カップルに比べ、相手の親きょうだいが、家族の一員と感じさせてくれない、と認識する傾向

親きょうだいとの関係の評価 (1=とてもよい、9=非常に悪い)(平均値)

	父親	母親	きょうだい	〈夫・妻・パートナー〉の父	〈夫・妻・パートナー〉の母	〈夫・妻・パートナー〉のきょうだい
男性—法律婚	3.25	3.14	3.48	3.56	3.42	3.67
男性—事実婚	3.79	3.35	4.07	4.04	3.85	4.10
男性カップル	4.30	3.41	4.11	4.25	4.40	4.49
女性—法律婚	3.34	2.83	3.24	3.82	3.91	4.33
女性—事実婚	3.57	3.15	3.45	4.35	4.24	4.72
女性カップル	4.10	3.57	3.56	4.45	4.13	4.49
全体	3.49	3.11	3.52	3.89	3.83	4.16

\* グレーのセルは、平均値が、法律婚<事実婚<同性カップル

★ 同性カップルは、法律婚カップルに比べ、全般に、周囲の人からのサポートが少ない可能性

#### (5) その他

### 5. 今後、必要とされる SOGI に関する調査研究



## 出典（調査）

- ① 性的マイノリティについての意識:2015 年全国調査 〈15 年意識調査〉  
母集団:日本在住の 20~79歳の個人  
標本抽出法:住民基本台帳を用いた、層化2段無作為抽出法  
配布回収方法:訪問留置法  
調査票配布数 2,600 有効回収数 1,259(有効回収率 48.4%)  
<https://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/chousa2015.pdf>
- ② 性的マイノリティについての意識:2019 年(第 2 回)全国調査 〈19 年意識調査〉  
母集団:日本在住の 20~79歳の個人  
標本抽出法:住民基本台帳を用いた、層化2段無作為抽出法  
配布回収方法:訪問留置法  
調査票配布数 5,500 有効回収数 2,632(有効回収率 47.9%)  
<https://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/2019chousa.pdf>
- ③ 大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート 〈19 年大阪調査〉  
母集団:大阪市に在住の 18~59歳の個人  
標本抽出法:住民基本台帳を用いた無作為抽出法  
配布回収方法:郵送配布郵送回収(ウェブ回答併用)  
調査票配布数 14,838 有効回収数 4,285 (有効回収率 28.9%)  
[https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/\\*20191108 大阪市民調査報告書\(修正2\).pdf](https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/*20191108%20大阪市民調査報告書(修正2).pdf)  
<https://osaka-chosa.jp>
- ④ 家族と性と多様性にかんする全国アンケート 〈23 年全国調査〉  
母集団: 日本在住の 18~69歳の個人  
標本抽出法:住民基本台帳を用いた無作為抽出法  
配布回収方法:郵送配布郵送回収(ウェブ回答併用)  
調査票配布数 17,855 有効回収数 5,339 (有効回収率 29.9%)  
<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/ZenkokuSOGISummary20231027R1.pdf>  
<https://zenkoku-chosa.jp>
- ⑤ 多様なカップル関係の調査 〈22 年カップル調査〉 本資料用に特別集計  
大手インターネット調査会社のアンケートモニター登録者 20~69 歳で配偶者・パートナーと同居中  
カップルタイプ:男女・女性どうし・男性どうしの別(回答者申告)、法律婚・事実婚・恋人関係の別、回答者の性自認への回答をもとに分類(法律婚男性 916、事実婚男性 527、同性カップル男性 114、法律婚女性 928、事実婚女性 510、同性カップル女性 99)  
JSPS 科研費 19H01571 研究代表者 Khor Y.T. Diana

## 出典（論文等）

- 釜野さおり, 2020, 「特集によせて(性的指向と性自認の人口学——日本における研究基盤の構築)」『人口問題研究』76(4):439-422.  
<https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/20760401.pdf>
- Hiramori, Daiki. 2022. Sexuality Stratification in Contemporary Japan: A Study in Sociology. PhD dissertation, Department of Sociology, University of Washington.  
<http://hdl.handle.net/1773/48558>
- Hiramori, Daiki, and Saori Kamano. 2020. "Understanding Sexual Orientation Identity, Sexual/romantic Attraction, and Sexual Behavior Beyond Western Societies: The Case of Japan." SocArXiv. March 13.  
<https://doi.org/10.31235/osf.io/ds8at>
- \* その他、関連研究の HP <https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/index.asp>